

# 健康福祉委員会資料

## (健康福祉局関係)

### 1 陳情の審査

(1) 陳情第155号 PCR検査・抗原検査の中止に関する陳情

資料 新型コロナウイルス感染症のPCR検査について

令和5年3月13日

健康福祉局

# 新型コロナウイルス感染症のPCR検査について

## 1 本市における患者発生状況と検査数、入院者数

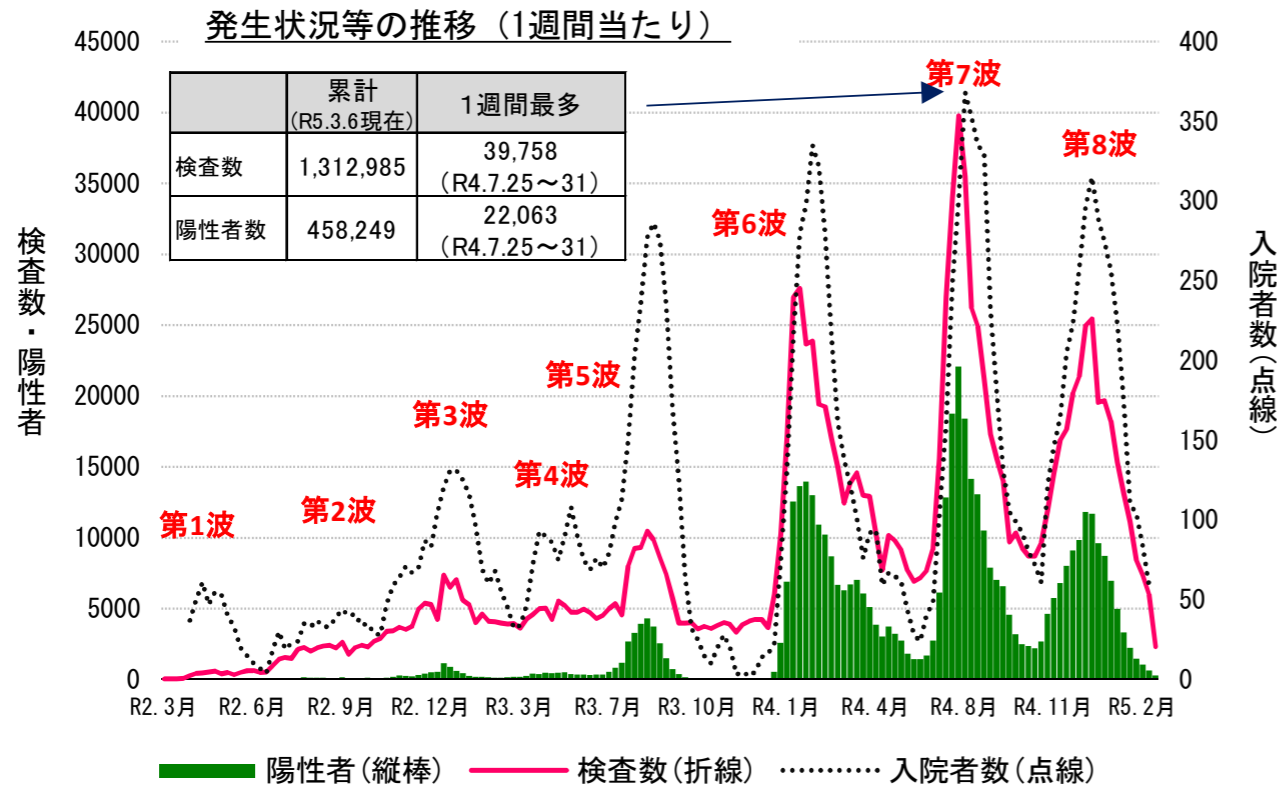


表1 期間別データ

期間別 最多数 (1日当たり)	第1波	第2波	第3波	第4波	第5波	第6波	第7波	第8波
	R2.3.1 R2.5.31	R2.7.1 R2.9.30	R2.12.1 R3.2.28	R3.4.1 R3.6.30	R3.7.1 R3.9.30	R4.1.1 R4.3.31	R4.7.1 R4.9.30	R4.11.1 R5.2.28
検査数	128 (R2.4.28)	562 (R2.9.15)	1,530 (R3.1.19)	1,276 (R3.5.10)	2,137 (R3.8.10)	4,977 (R4.1.31)	6,766 (R4.7.27)	4,697 (R4.12.12)
陽性者数	18 (R2.4.11)	52 (R2.9.16)	226 (R3.1.9)	107 (R3.5.12)	806 (R3.8.20)	2,547 (R4.2.6)	3,838 (R4.7.28)	2,205 (R4.12.28)
入院者数 (確定例)	63 (R2.4.20)	46 (R2.9.23)	141 (R3.1.18)	110 (R3.5.31)	299 (R3.8.25)	341 (R4.2.21)	396 (R4.8.9)	335 (R4.12.21)

- (1) 1日の検査数は、第1波約100件、第2波500件以上、第3波1500件以上、第6波以降約5000件以上で、当初はPCR検査のみが行政検査として認められ、健康安全研究所と一部病院等で実施されていたが、次第に民間検査機関への外注や抗原検査キットが普及し、多くの病院・診療所においても対応可能となり、検査能力が順次拡大。  
(市内行政検査契約施設数: 419施設 (R5.3.6現在))
- (2) 陽性者数は、令和3年夏(第5波)には806人/日となったが、その後令和4年冬(第6波)には2,547人/日、令和4年夏(第7波)には3,838人/日と急拡大した。このことは感染力が強いオミクロン株が主流となった影響と考えられる。
- (3) 本市において、検査数、陽性者数、入院者数が最多となったのは第7波であり、検査数が増加すると、陽性者数、入院者数ともに増加している。

表2 各検査方法の特徴

出典: 厚生労働省HP

検査方法	検出対象	精度	判定時間
PCR検査	ウイルスを特徴づける遺伝子配列	抗原定性検査より少ない量のウイルスを検出できる	数時間(検査機器が必要)
抗原定量検査	ウイルスを特徴づけるたんぱく質(抗原)	抗原定性検査より少ない量のウイルスを検出できる	約30分(検査機器が必要)
抗原定性検査	ウイルスを特徴づけるたんぱく質(抗原)	検出には、一定以上のウイルス量が必要	約20分(その場で判定可)

PCR検査は、精度の高さが求められる集団発生事例や、変異株のサーベイランス等において活用されている。抗原定性検査は、その場での判定が求められる発熱外来等において、多く実施されている。

## 2 PCR検査について

### (1) PCR検査とは

ウイルス量が少ない等の場合でも、ウイルスが有している遺伝子を増幅させて検出する技術であり、ウイルスのみならず様々な微生物、病原体の検査研究のために世界中で広く用いられている。

### (2) PCR検査の妥当性、信頼性

検査が適切に行われ、目的とするウイルスが正確に検出されているかを確認するため、陽性対照及び陰性対照の検査を同時に実施している。

また、その検査方法が的確な手順によって行われたものかを検証するために、検査機関には「精度管理」というチェック機能があり、検査の信頼性を高めている。

### (3) PCR検査でわかること、感染性

PCR検査は感度が高いことから、感染力を有するウイルスが消失した状況にあっても、そのウイルスの断片(遺伝子)が残っている状態であれば検査は陽性となるため、検査陽性=感染力を有するウイルスがある、とはならないものの、ウイルス量の少ない感染初期にも検出・診断ができるというメリットがある。

### (4) 新型コロナにおけるPCR検査の意義

PCR検査を用いて行政検査を行うことにより、高齢者等のリスクの高い感染者を早期発見し、投薬や入院適用等、適切な医療に繋ぐことが可能となる。また、患者の診断だけでなく、高齢者施設等のクラスター対策、流行状況の把握、ワクチンや治療薬の効果の判定、予防対策方法の考え方、変異ウイルスの検出等の知見を得るためにも必要な検査である。

## 3 本市の考え方

PCR検査は、感度が高く、信頼性にも優れ、結果を迅速に知ることができる、現在ある検査法の中でも最も優れた方法の一つとして、世界的に標準的な検査法として採用されている。本市が独自に行っているものではなく、WHOなどの国際機関の推奨に準じて、国が定めた方法により行っているものであり、本市の判断で中止できるものではないと考えている。一方でPCR検査陽性となった方が、必ずしも感染性のあるウイルスを持っているわけではない場合等もあるため、引き続き検査結果の適切な取扱いや、正しい知識の周知等を行っていく。